

第3回

資料3

1	学科・コースの見直しに関する検討の視点	・・・1
2	農業科について	・・・2
3	工業科について	・・・4
4	普通科・総合学科・商業科・家庭科について	・・・6
5	各学科の定員割合の推移と全国状況	・・・10
6	中学3年生の学科別進学希望状況と学科別募集定員割合	・・・11
7	職業系専門学科卒業生の進路状況	・・・12

1 学科・コースの見直しに関する検討の視点

1 学科・コースの見直し

- ・各学科の教育活動は、生徒、保護者、産業界のニーズに合っているか。
(職業系専門学科における志願状況、進学者割合の増加等)
- ・普通科の魅力化・特色化をさらに進めるための学科やコースの設置をどうするか。

2 各学科の配置・定員設定等

- ・各学科の募集定員の減少に対応するため、県内における学校、学科の配置をどうするか。
- ・1学科1学級の職業系専門学科をどうするか。

(参考)

令和5年度の中学校卒業予定者数および学科別募集定員に対する割合から令和14年度、令和19年度の学科別募集定員を算出した。

なお、令和5年度の普通科系割合は63.7%であり、これまで目安としてきた66%程度とするためには、さらに職業系専門学科の定員減が必要となる。

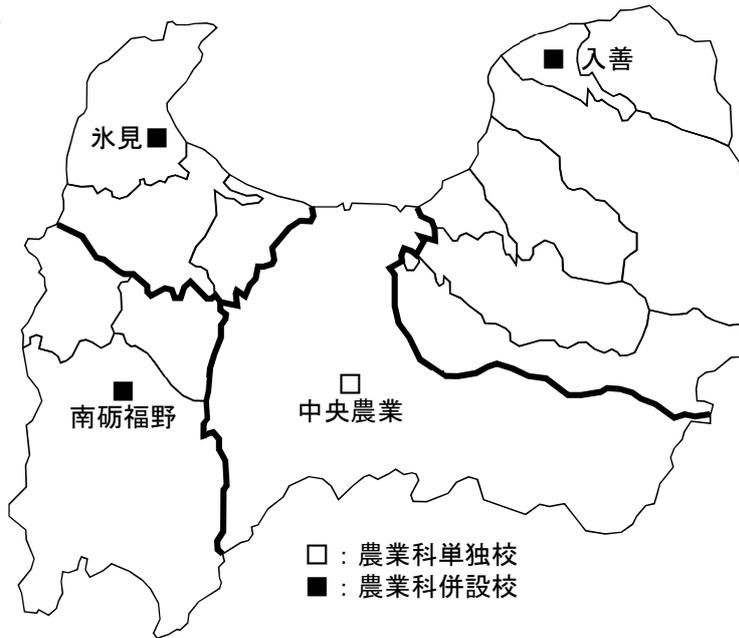
※令和5年度の学科別募集定員の割合を維持した場合

高校入学年度		現在(令和5年度)		令和14年度	令和19年度
中卒予定者数		8,752		7,335	6,207
<対R5年度割合>		(100.0%)		(83.8%)	(70.9%)
		募集定員(A)		単純比例推計	
				(A) × 83.8%	(A) × 70.9%
学科別内訳	農業	4校	158	132 (▲ 26)	112 (▲ 46)
	水産	2校	60	50 (▲ 10)	43 (▲ 17)
	工業	7校	1,030	863 (▲ 167)	730 (▲ 300)
	商業	7校	640	536 (▲ 104)	454 (▲ 186)
	家庭	3校	120	101 (▲ 19)	85 (▲ 35)
	看護	1校	40	34 (▲ 6)	28 (▲ 12)
	福祉	1校	30	25 (▲ 5)	21 (▲ 9)
計		17校	2,078	1,741 (▲ 337)	1,473 (▲ 605)

()内は対R5年度比

2 農業科について

1. 配置状況



砺波学区	高岡学区	富山学区	新川学区
南砺福野 ■	氷見 ■	中央農業 □	入善 ■
農業環境科 (30)	農業科学科 (20)	生物生産科 園芸デザイン科 ハチ技術科 (くくり募集で76名)	農業科 (30)

() 内は R6 年度の募集定員

2 志願状況と欠員状況 (過去 10 年間)

H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度		<参考>
倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	R5募集定員								
1.23		1.00	12	1.21		0.89	21	0.80	32	0.72	31	0.76	44	0.76	55	0.72	33	0.81	47	158

3 進路状況

(平成 26 年 3 月卒業生)



(令和 4 年 3 月卒業生)



4 関係高校長からの意見

【学科・コースの見直し】

- 農業そのものの基礎・基本はもちろん、技術革新も著しいこれからの農業に向けた知識やスキルを身につけることも必要である。
- 今後は、学校外との連携を充実させていきたい。
 - ・大学などの高等教育機関との共同研究、地域とのコラボ及び地元小中学校との連携活動
 - ・校内の他学科や他校との連携活動、農福連携を視野に入れた取組み など
- 農業教育においてもSDGsの実践、AIやIoTの利活用、スマート農業技術の導入など、変革の時を迎えている。
- 本校では、志願者数が減少していることから、中学生に学んでみたいと思わせることのできる内容、加えて社会のニーズをくみ取った教育課程を検討していくことが必要な時期と考える。例えば、富山で唯一の動物系学科の魅力を打ち出していくことなどが考えられる。
- 学科の改編等を検討する場合に課題となることもある。
 - ・「生徒が何を学ぶのか」という柱を作ることが必要
 - ・実習施設の改修や新設、設備の充実等が必要 など

【各学科の配置・定員設定等】

- 各学区に農業を学ぶ場が必要
 - ・農業を学んだ者が地域に残り、リーダー性を発揮している。「これからは農業の時代」という言葉も聞く。農業は生活と切っても切れない産業。農業技術を継承する一定の人口は地域にも必要。
 - ・農業科が地域とのかかわりが一番深い。
 - ・卒業後、すぐに就農する生徒は少ないが20代～30代で富山県に戻り、農業に従事している卒業生もいる。大学進学後、地元に戻って就農し、起業する卒業生もいる。

【魅力発信等】

- 地元中学生に授業見学や体験学習してもらおう取組みを行い、農業のすばらしさの理解を図っている。
- 生徒が選択しやすくなるように、全員が入寮する義務期間を入学後1年間から1学期間に短縮した。
- 学校の取組みを新聞等で紹介してもらっているが、中学生に対してはHPやSNSを活用した情報発信を強化していく必要がある。
- 今年度、県の事業でPR動画も作成している。魅力発信の様々な取組みを検討していきたい。
- 中央農業高校は最寄りのバス停から徒歩30分程度あり通学が大変である。生徒の利便性や安全性を確保する必要がある。

3 工業科について

1. 配置状況



学区	砺波学区	高岡学区	富山学区	新川学区
高校	砺波工業◎ (140)	高岡工芸◎ (270)	富山工業◎ (320) 富山北部◆ (80)	滑川◆ (40) 魚津工業◎ (105) 桜井■ (40)
機械系	◎	◎	◎	◎
電気・電子系	◎	◎	◎	◎
土木・建築系	—	◎	◎	■
化学・薬業系	—	◎	◆	◎◆
工芸・デザイン系	—	◎	—	—

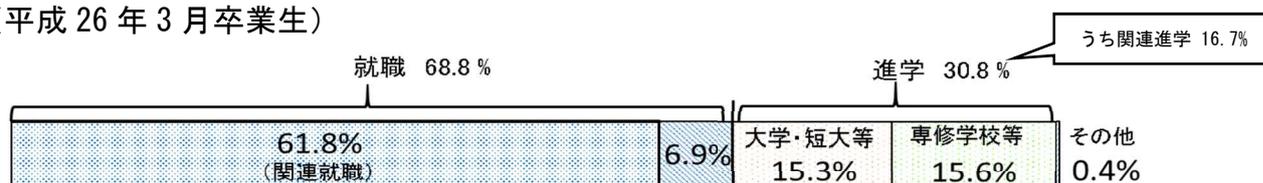
() 内は R6 年度の募集定員

2 志願状況と欠員状況 (過去 10 年間)

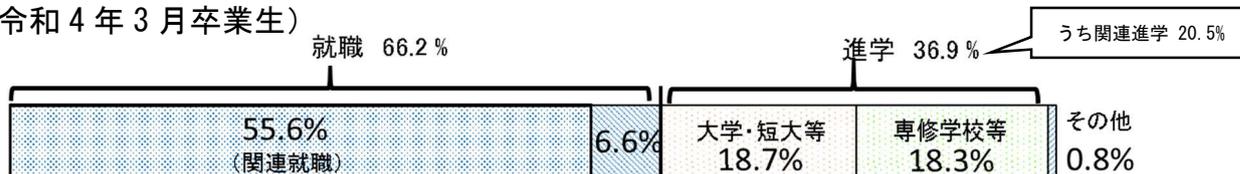
H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度		<参考>
倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	R5募集定員								
1.39		1.34		1.33	1	1.26		1.23		1.24		1.30	22	0.99	54	1.10	54	0.85	99	1,030

3 進路状況

(平成 26 年 3 月卒業生)



(令和 4 年 3 月卒業生)



4 関係高校長からの意見

【学科・コースの見直し】

- 現在の教育課程は、1年で基礎、2年で演習、3年で応用とステップを踏み、3年間をかけてじっくりと学ぶことができるようになっている。
- 毎年、多くの求人があり、就職内定率は100%となっている。また、県内就職率も高く(全国2位)県内企業を支える人材育成の一翼を担っている。
- 選択する科目によって、4年制大学等へ進学する生徒も2割程度おり、幅広い進路選択が可能。
- 今後の方向性
 - ・IT技術や産業用ロボットをはじめとする自動化システムを運用し、デジタルものづくりを推進する人材の育成を目指す。
 - ・全科共通で、プログラミング、データサイエンスなどの情報分野について学ぶ。
 - ・地域連携やフィールドワーク、企業や大学などの高等教育機関との共同研究を充実する。
 - ・女子生徒が学びやすい環境を作ることも大切。 など
- 学科改編、学科名変更
 - ・現在、新しい教育活動の試みをいろいろ行っている。学習指導要領も新しくなったところなので、学科改編のチャンスかと思う。それが、中学生へのPRにもなる。
 - ・学科名の変更も検討していくが、何をやっているか分かる名称にする必要がある。 など
- 砺波学区に建設系学科設置の要望があるそうだが、第2回検討会議の視察報告にあった塩沢商工のように、業界団体から実習等の協力が得られると検討していくことができるかもしれない。

【各学科の配置・定員設定等】

- 各学区に工業を学ぶ場が必要
 - ・現在、多くの求人がある。工業高校がなくなると、その地域の担い手がなくなる。
 - ・地域から工業高校がなくなると、遠くの工業高校には行かず、他の学科に進学する生徒が出る可能性もある。
- 一括募集
 - ・工業の基礎や産業界で求められる技量等を、3年間通して、じっくりと積み上げる専門教育ができなくなる。
 - ・1年次の教育課程を全学科共通にする必要がある。教育課程の変更により、専門教科の時間が減少し、資格の種類によっては所定の単位数を確保できず、取得できなくなる可能性がある。
 - ・入学してから学科を選択するまでの時間的な余裕がない。
 - ・こうしたデメリットはあるものの、志願状況等を踏まえ、全国での導入状況などを研究していく必要がある。
 - ・一括募集を実施する場合は、学科改編や科目変更と同時に行い、中学生にとって魅力ある工業高校にする必要がある。

【魅力発信等】

- 中学生対象のロボットセミナーなど、工業に興味を持ってもらえるような体験活動を実施している。
- ミラコン、ロボットフェスタなど工業高校の取組みを紹介するイベントを多く行っているが、宣伝不足の面もある。今後は、SNS等による情報発信や、多くの人が集まる場所での開催などPR方法も検討していきたい。

4 普通科・総合学科・商業科・家庭科について

～ 普通科・総合学科 ～

1. 配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討

※『令和の魅力と活力ある県立高校のあり方等に関する報告書』（令和5年5月）より

(普通科及び普通科コース)

- ・国の普通科改革の動向にも注視しつつ、普通科の魅力化・特色化をさらに進めるため、学科やコースの設置などについての検討
- ・中学校卒業予定者数の減少に対応しつつ、生徒のニーズ等を踏まえた配置バランスや定員設定等についての検討

(総合学科)

- ・全県的な視野に立って、総合学科のある学校の配置バランス、定員設定等の検討

2. 配置状況

大学科	学級数	定員	小学科	砺波学区			高岡学区			富山学区			新川学区		
				学 校	学 級 数	定 員	学 校	学 級 数	定 員	学 校	学 級 数	定 員	学 校	学 級 数	定 員
普通	82	3,240		砺波 南砺福野 石動 南砺平	4 4 3 1	160 160 120 30	高岡 高岡南 大門 新湊 福岡 氷見	4 4 3 3 3 2	160 160 120 120 120 80	富山東 呉羽 富山南 富山 富山中部 八尾 富山西 富山北部	6 6 5 4 4 4 4 3	240 230 200 160 160 160 160 120	魚津 入善 桜井 滑川 雄山	4 4 3 2 2	160 140 120 80 80
理数・ 英語・	6	240	理数科学・ 人文社会科学 ※				高岡	2	80	富山 富山中部	2 2	80 80			
国際	4	135	国際 国際交流	南砺福野	1	30	伏木	3	105						
総合	12	450					小杉	4	150	富山いずみ	4	150	上市	4	150

※探究科学科は理数科学と人文社会科学の2学科の総称

(令和6年度募集定員)

○普通科コース設置状況

砺波学区	高岡学区	富山学区	新川学区
	大 門(情報) 高 岡 南(人文科学) 福 岡(英語)	八 尾(福祉) 富山北部(体育) 富 山 東(自然科学) 富 山 南(国際) 呉 羽(音楽)	入善(自然科学) (観光ビジネス)

3. 学科について

普通教育を 主とする学科	専門教育を主とする学科		普通教育及び専門教育 を選択履修を旨として 総合的に施す学科
	その他	職業系	
<u>普通科</u> 新たな普通科 (学際領域学科 地域社会学科)	<u>理数関係</u> <u>外国語関係</u> <u>国際関係</u> ・音楽関係 美術関係・体育関係	<u>農業</u> ・ <u>水産</u> ・ <u>工業</u> <u>商業</u> ・ <u>家庭</u> ・ <u>看護</u> <u>福祉</u> ・情報	<u>総合学科</u>

※下線は、本県に設置されている学科

※探究科学科は理数科学(理数関係)と人文社会科学(外国語関係)の2学科の総称

4. 新たな普通科について

高等学校における「普通教育を主とする学科」は、普通科とされていたが、学校教育法施行規則等の一部改正等により、令和4年度から新たに「普通科その他普通教育を施す学科」として、新たな普通科の設置が可能となった。

学科の名称は、「スクール・ポリシーにふさわしいものとする」とされているが、例えば学際領域学科は学際領域に関する科目を開設し、大学等との連携協力体制をとる学科、地域社会学科は地域社会に関する科目を開設し、地域の行政機関等との連携協力体制をとる学科となっている。

【参考】

・「普通科以外の普通教育を施す学科」の設置状況

(都道府県立高等学校全日制における令和5年度募集)

岐阜県立坂下高校：地域探究科(地域社会学科)

島根県立隠岐島前高等学校：地域社会学科

長崎県立松浦高等学校：地域科学科(地域社会学科)

・岐阜県立坂下高校：地域探究科(地域社会学科)の改編状況

令和3年度	令和4年度～
普通科	地域探究科 (進学・看護コース、未来共生コース 保育コース、調理・製菓コース)
生活デザイン科	
福祉科	福祉科

5. 視察報告(普通系専門学科)

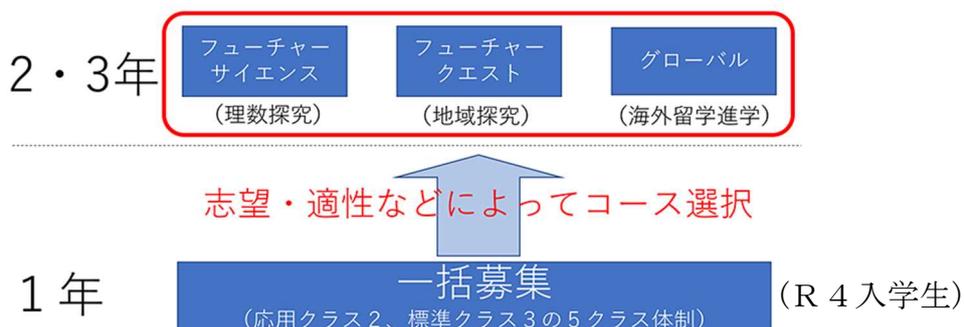
【福井県立武生東高等学校】

①学校概要

- ・ R 3 入学生まで「普通科 4 学級+国際科 1 学級」
- ・ R 4 入学生から「学際フロンティア学科 5 学級 150 名」に改編
- ・ R 5 入学生から「学際フロンティア学科 4 学級 130 名」に変更

②特色ある取組み

- ・ 全クラスを学際フロンティア学科として一括募集。2 年次から 3 コースに分かれる。
フューチャー・サイエンスコース (理数探究)、フューチャー・クエストコース (地域探究)、グローバルコース (国際交流)



- ・ 同校が中心となり国際会議「ワールド・ハピネス・フォーラム」を開催。世界各国の高校生が、地域創生につながる活動や地域の環境保全活動をはじめとする様々な実践について語り合う。R 4 はオンラインを中心に国内・海外あわせて 7 ヶ国 130 名が参加。R 5 はオンラインと会場参加のハイブリッド型で開催予定。



ワールド・ハピネス・フォーラムの様子

- ・ 2 年次に修学旅行を実施。選択型の研修旅行として国外はシンガポール、国内は種子島・屋久島など鹿児島方面を訪れる。2 年次所属コースによらず希望した方面に行けるのは、福井県内でも同校のみ。

③成果と課題(学校より)

< 1 学科 3 コース体制について >

- ・ 英語力の底上げにつながった。
- ・ 出願時に学科を選ぶ必要がなく、入学後にコースを選ぶためミスマッチが減少した。
- ・ 学科・コース名の認知度が低い。何を学べる学科か中学生がイメージしにくい。
- ・ 現 2 年生は 5 学級の募集で 2 年次にフューチャーサイエンス 2、フューチャークエスト 2、グローバル 1 学級に分かれた。現 1 年生は 4 学級のため、2 年次クラス編成が難しい。

～ 商業科・家庭科 ～

1. 配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討

※『令和の魅力と活力ある県立高校のあり方等に関する報告書』（令和5年5月）より

(商業科・家庭科)

- ・ 社会の変化に応じた新たな学科やコースへの改編などについての検討
- ・ 中学校卒業予定者数の減少に対応しつつ、生徒、産業界のニーズ等を踏まえた配置バランスや定員設定等の検討

2. 配置状況

大学科	学級数	定員	小学科	砺波学区			高岡学区			富山学区			新川学区			
				学校	学級数	定員	学校	学級数	定員	学校	学級数	定員	学校	学級数	定員	
商業	16	640	商業	石動	1	40	新湊	1	40				滑川	1	40	
			ビジネス				氷見	1	40							
			流通ビジネス				高岡商業	2	80	富山商業	2	80				
			国際ビジネス				高岡商業	1	40							
			ビジネスマネジメント							富山商業	1	40				
			会計ビジネス						高岡商業	1	40	富山商業	1	40		
			情報ビジネス						高岡商業	1	40	富山商業	2	80		
			情報デザイン								富山北部	1	40			
家庭	3	120	生活環境										桜井	1	40	
			生活文化											雄山	1	40
			生活福祉				氷見	1	40							

※網掛けは、普通科に併設する1学級の商業科・家庭科

3 学科別志願状況と欠員状況（過去10年間）

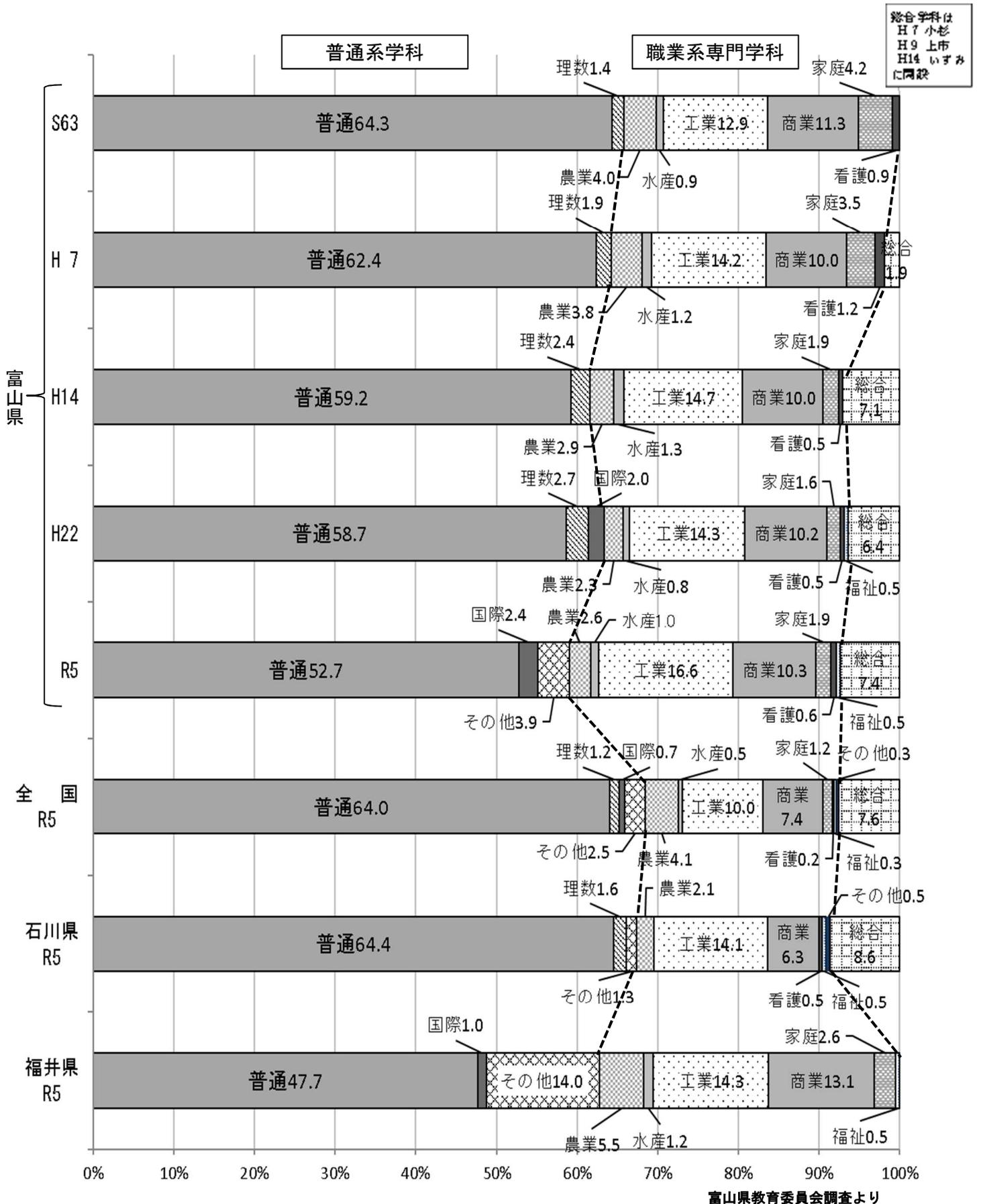
(商業科)

H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度		<参考>
倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	R5募集定員								
1.36		1.25		1.20		1.14		1.33		1.24		0.95	2	1.21	1	0.97	8	1.12	4	640

(家庭科)

H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度		<参考>
倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	R5募集定員								
1.56		1.04		1.62		1.04		1.00		1.28	1	0.92	3	1.16	1	0.88	11	1.20		120

5 各学科の定員割合の推移と全国状況（公立高校全日制課程）



* 普通系学科の「その他」には探究科学科・体育・芸術関係などが、職業系専門学科の「その他」には情報関係などが含まれる。

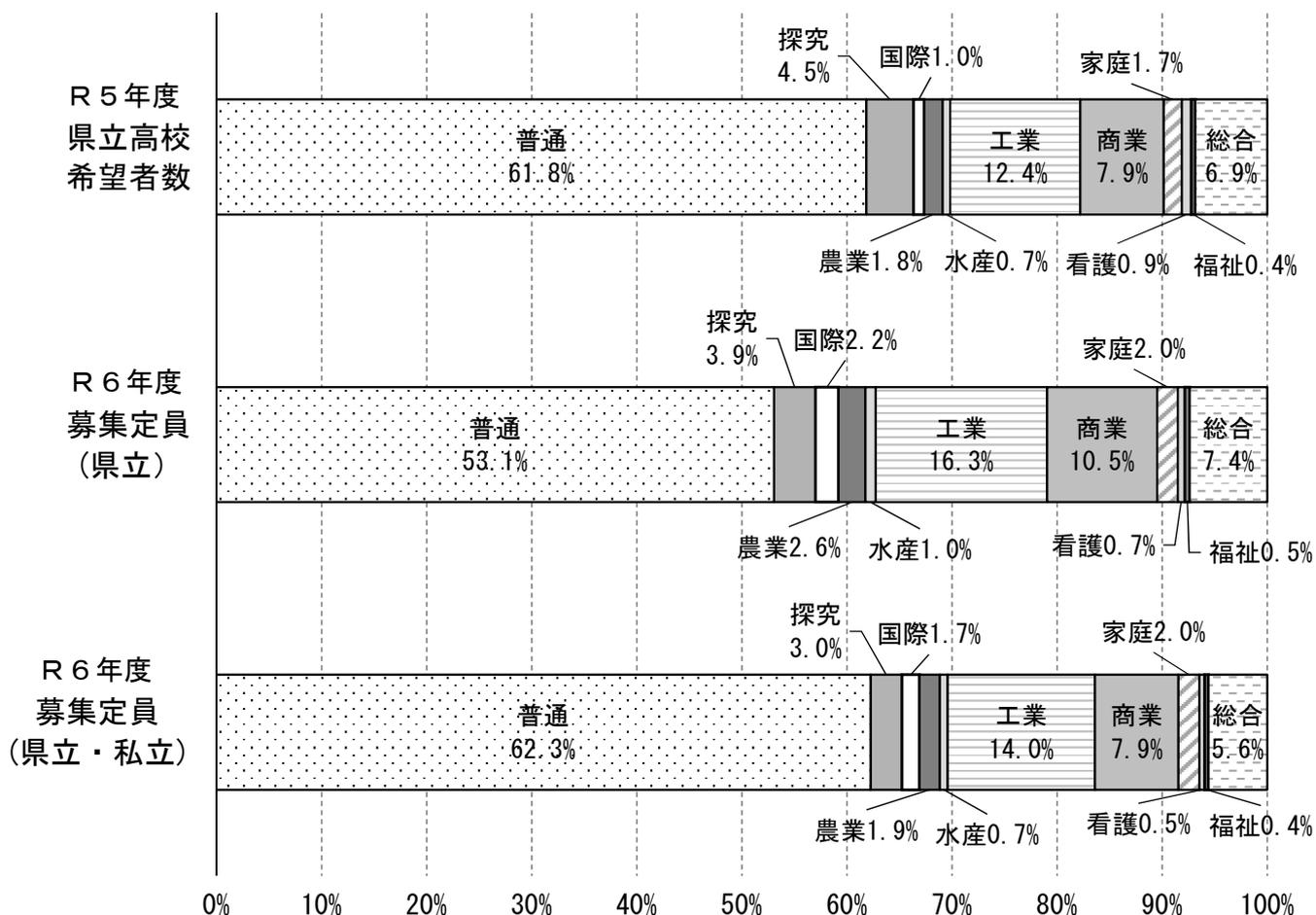
6 中学3年生の学科別進学希望状況と学科別募集定員割合

- ・ 中学3年生の県立高校（全日制）の各学科への希望と募集定員の関係について、募集定員が200名（5学級）以上の学科をみると、普通科、探究科学科、総合学科で、希望者数が募集定員を上回っている。

県立全日制高校への学科等区分別希望状況(R5)及び県内全日制高校募集定員(R6)

区分	計(人)	普通系学科			職業系専門学科								総合学科
		普通科	探究科学科	国際科	農業科	水産科	工業科	商業科	家庭科	看護科	福祉科		
進学希望者	県立全日制高校 進学希望者数(R5.5)	7,083	4,380	318	72	124	52	877	563	121	63	27	486
	全体に占める割合	100.0%	61.8%	4.5%	1.0%	1.8%	0.7%	12.4%	7.9%	1.7%	0.9%	0.4%	6.9%
募集定員 (R6年度)	県立全日制高校	6,106	3,240	240	135	156	60	995	640	120	40	30	450
	(希望倍率)	1.16	1.35	1.33	0.53	0.79	0.87	0.88	0.88	1.01	1.58	0.90	1.08
	私立全日制高校	1,950	1,775	—	—	—	—	135	—	40	—	—	—
	県立・私立の合計	8,056	5,015	240	135	156	60	1,130	640	160	40	30	450

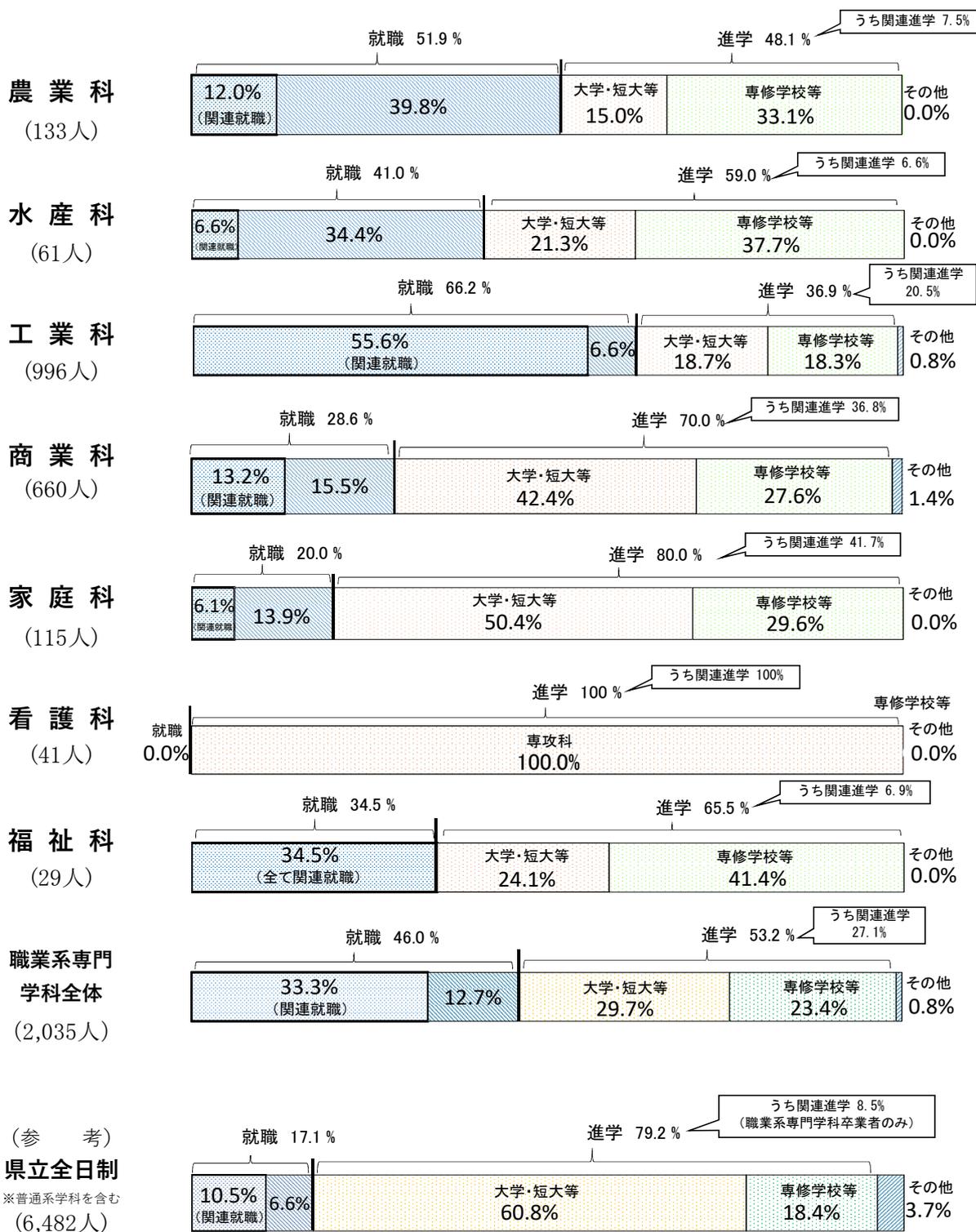
構成比の比較



7 職業系専門学科卒業生の進路状況

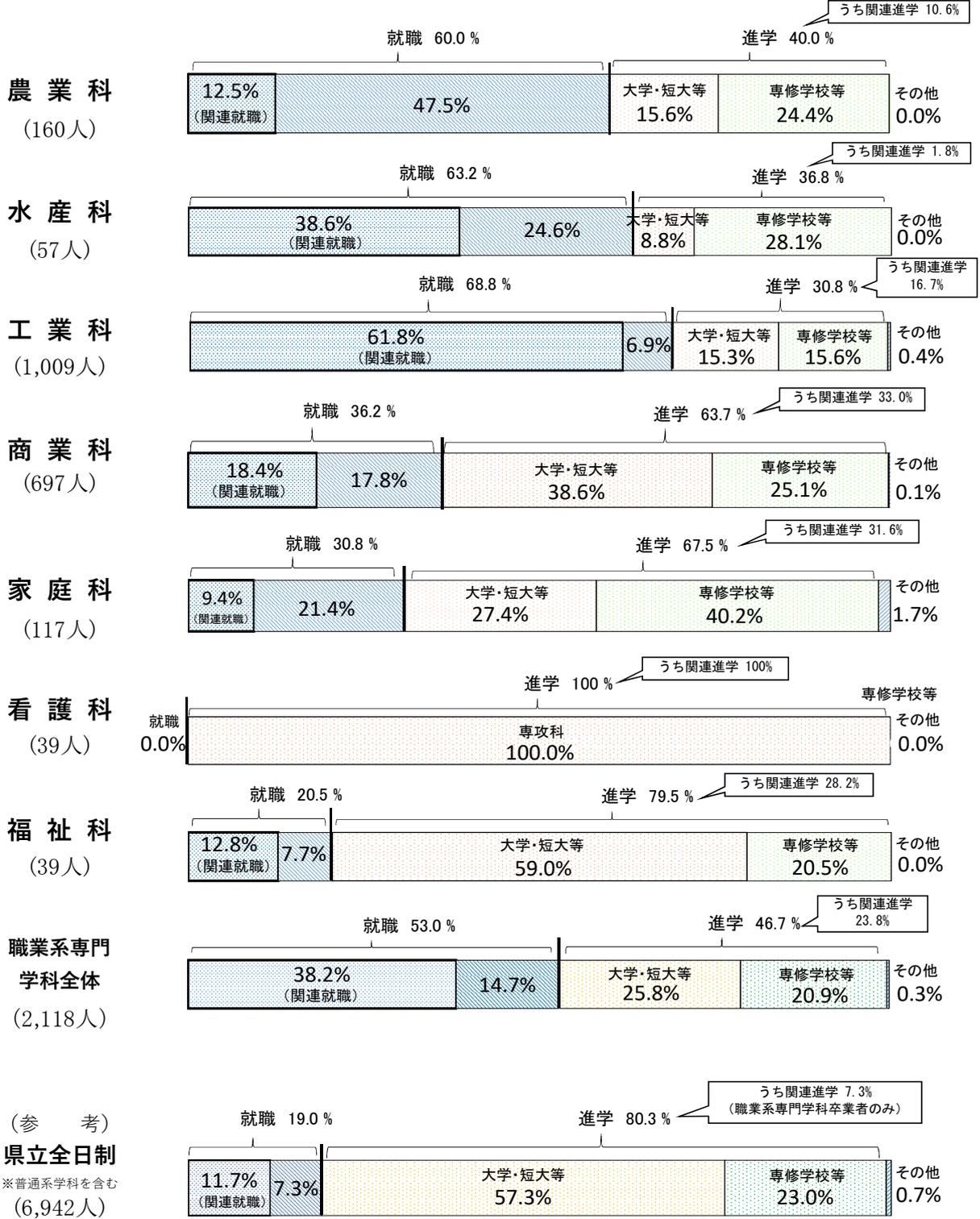
「関連就職」は、学校基本調査の付帯調査（各年5月1日現在）において、生徒が在籍していた小学科と関連のある職務に就いた者として回答のあった数をもとに作成したもの

令和4年3月 県立全日制高校卒業者 ()内は各学科の卒業生数



※関連就職は職業系専門学科卒業者のみ

平成26年3月 県立全日制高校卒業生 ()内は各学科の卒業生数



※関連就職は職業系専門学科卒業者のみ